

# 2019年度決算の概要

(2019年4月1日～2020年3月31日)

**ご説明資料**

# 目次

## 1. 2019年度決算の概況

損益の概要

構造ベース利益について

経常利益の変化要因

(2018FY→2019FY、2019FY上期→2019FY下期、2019FY3Q→2019FY4Q、2019FY予想→2019FY)

業績推移(年度、四半期)

当社単体業績、Ovako業績、MSSS業績

セグメント別損益

貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

2019FY配当金について、配当推移

## 2. 緊急収益改善対策

## 3. 2020年度業績予想及び配当予想

## 4. 新型コロナウイルス感染症への対策

## 5. トピックス

## 6. 参考資料

自動車市場の動向、産業機械市場の動向、特殊鋼市場の動向

原燃料価格の推移

## 損益の概要(対2018FY)

(単位:億円)

	2019FY (A)		2018FY (B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上高	2,625	100.0	1,858	100.0	+766	+41.2
営業利益	▲14	-0.5	101	5.4	-115	-
内、当社単体	36	-	98	-	-61	-62.9
内、Ovako (注1)	▲6	-	-	-	-6	-
内、MSSS (注1,4)	▲9	-	▲2	-	-7	-
内、のれん償却費	▲29	-	▲3	-	-26	-
経常利益	▲15	ROS -0.6	94	ROS 5.1	-110	-
純利益(注2)	▲37	-1.4	77	4.2	-114	-

純利益(構造ベース)(注3)	5	0.2	66	3.5	-61	-92.2
----------------	---	-----	----	-----	-----	-------

売上数量(千t)	1,615	134.6/月	1,171	97.6/月	+445	+37.1/月
内、当社単体	854	71.2/月	1,061	88.4/月	-207	-17.2/月
内、Ovako	667	55.6/月	-	-	+667	+55.6/月
内、MSSS (注4)	95	7.9/月	110	12.2/月	-16	-4.4/月

(注1) 連結する両社の決算期間は2019年1月～12月

(注4) FY2018は2Qより連結

(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益からのれん償却費や段階取得差益を調整した利益

FY2019: 純利益+のれん償却費(一括償却含む)(5億円=▲37億円+42億円)

FY2018: 純利益-MSSS段階取得差益+のれん償却費(66億円=77億円-12億円)

# 損益の概要 (対2019FY予想)

(単位: 億円)

	2019FY (A)	2019FY予想 (B)	対2019FY予想 (A)-(B)
	金額	金額	金額
売上高	2,625	2,600	+25
営業利益	▲14	▲19	+5
内、当社単体	36	31	+5
内、Ovako	▲6	▲6	-
内、MSSS	▲9	▲9	-
内、のれん償却費	▲29	▲29	-
経常利益	▲15	▲23	+8
当期純利益(注1)	▲37	▲28	-9

営業利益および経常利益は、原燃料価格の低下や、人件費・諸経費の削減等の収益改善対策の上乗せによる固定費の減少等により、前回発表予想より増加した。

当期純利益は、経常利益等の増はあったものの、連結決算において、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、インド現地法人MSSSの収益回復時期が遅れるとみられることから、のれんの一括償却約13億円を特別損失にて実施したため、減少した。

(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益

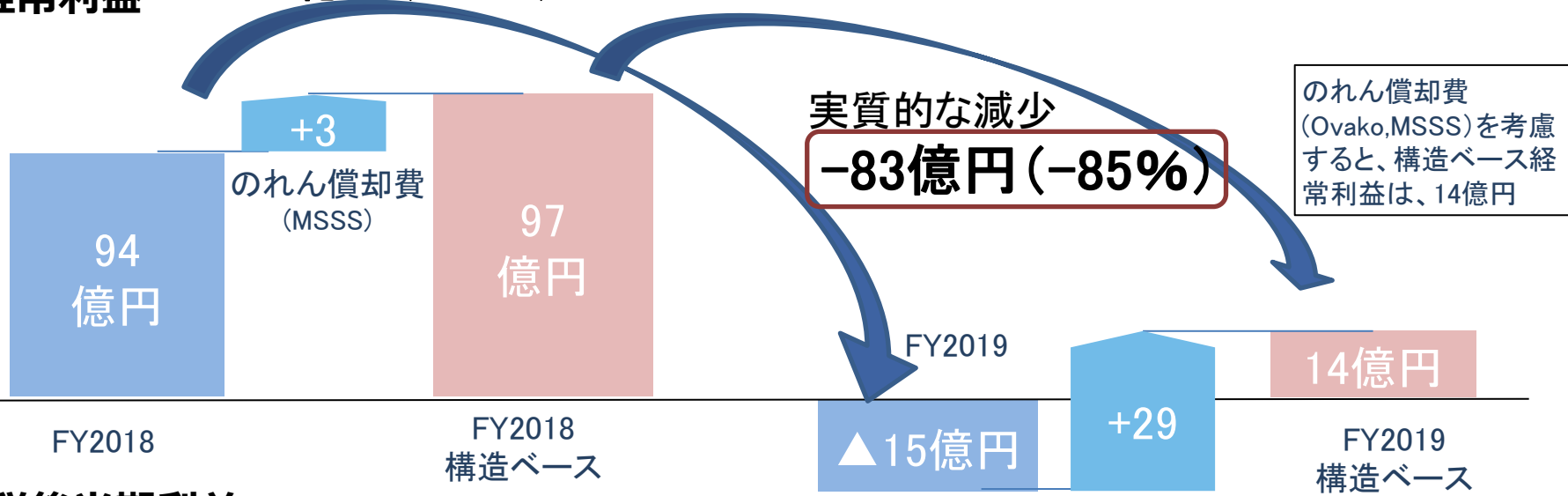
(注2) 2019FY予想は、2020年1月31日時点

&lt;参考&gt;

	2019FY (千t/年)	2019FY予想 (千t/年)	対2019FY予想 (千t/年)
	売上数量	1,615	1,616
(内 単体)	854	855	-1
(内 Ovako)	667	667	-
(内 MSSS)	95	94	+0

# 構造ベース利益について (FY2018→FY2019)

■ 経常利益 -110億円 (-116%)

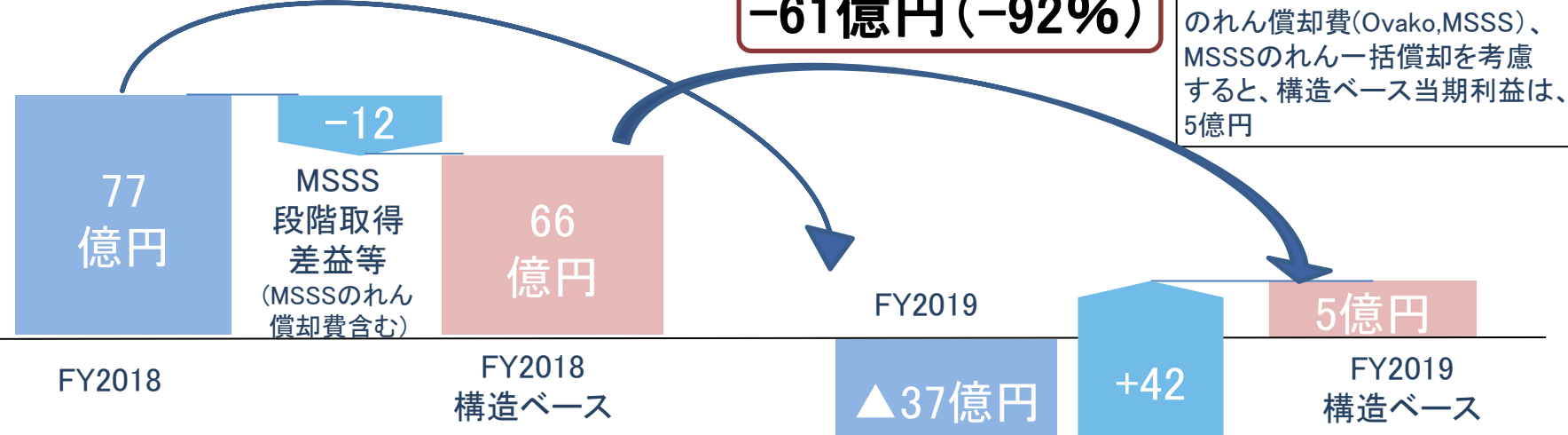


のれん償却費 (Ovako, MSSS) を考慮すると、構造ベース経常利益は、14億円

■ 税後当期利益

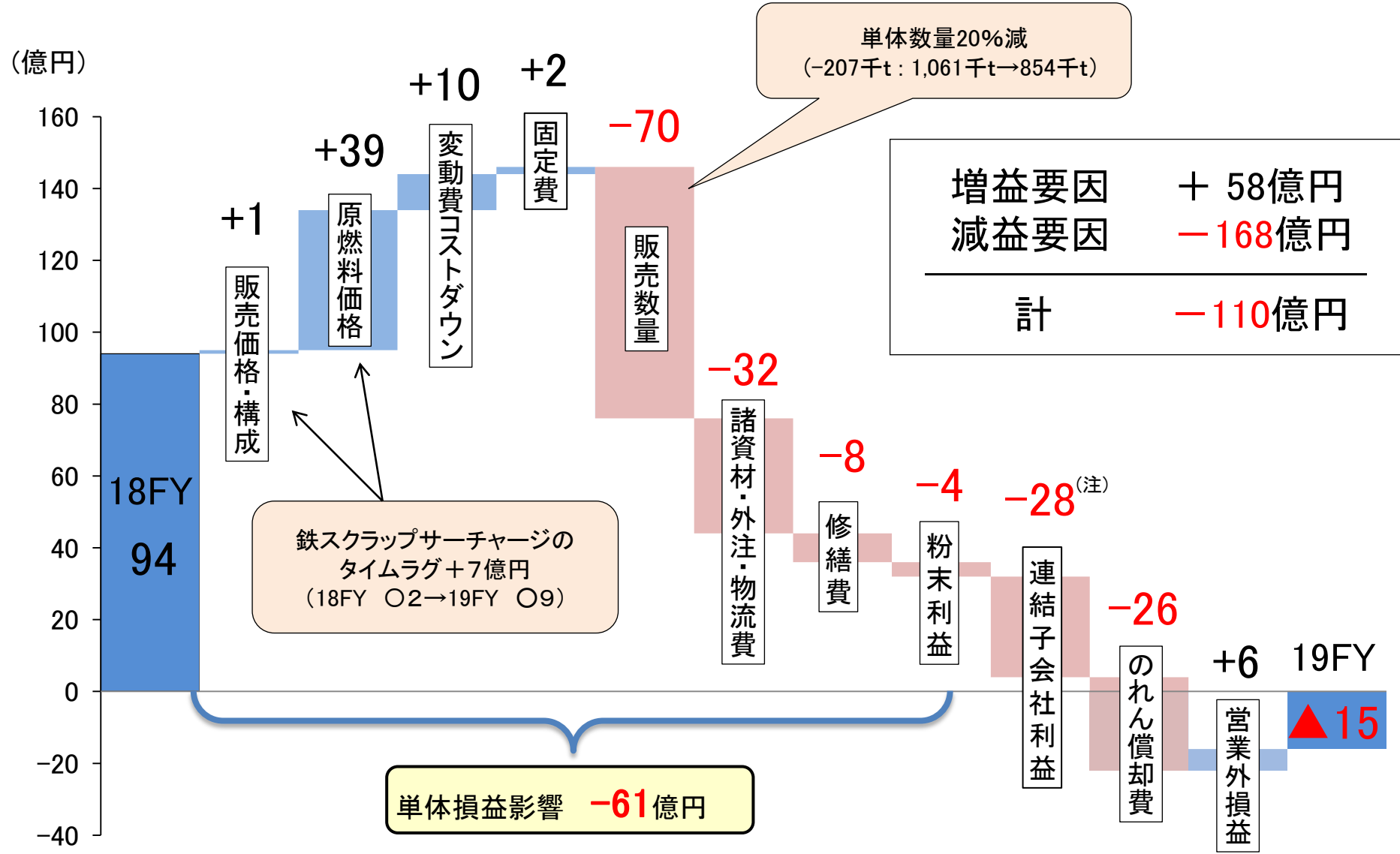
-114億円 (-148%)

実質的な減少  
-61億円 (-92%)



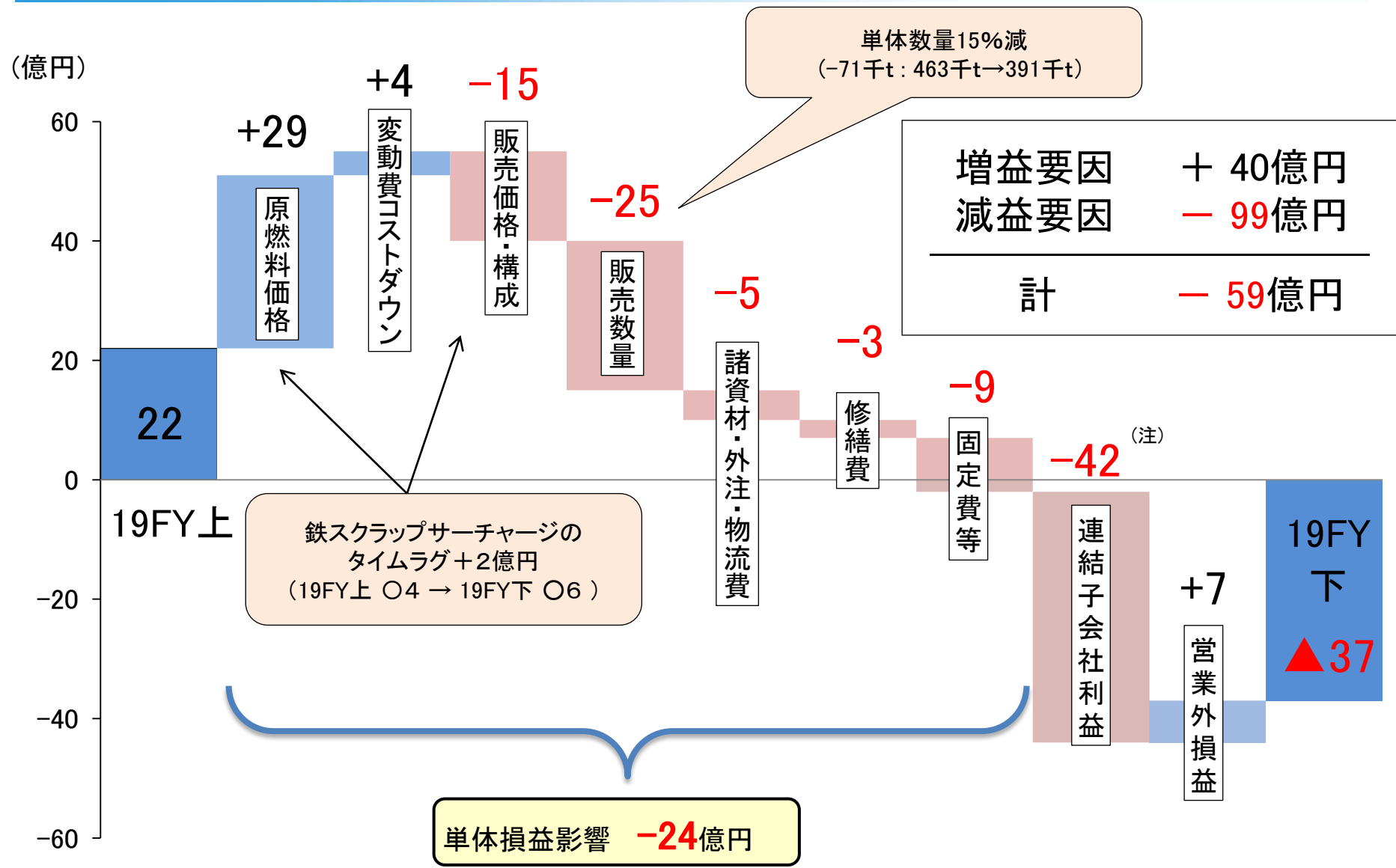
のれん償却費 (Ovako, MSSS)、MSSSのれん一括償却を考慮すると、構造ベース当期利益は、5億円

# 経常利益の変化要因(2018FY→2019FY)

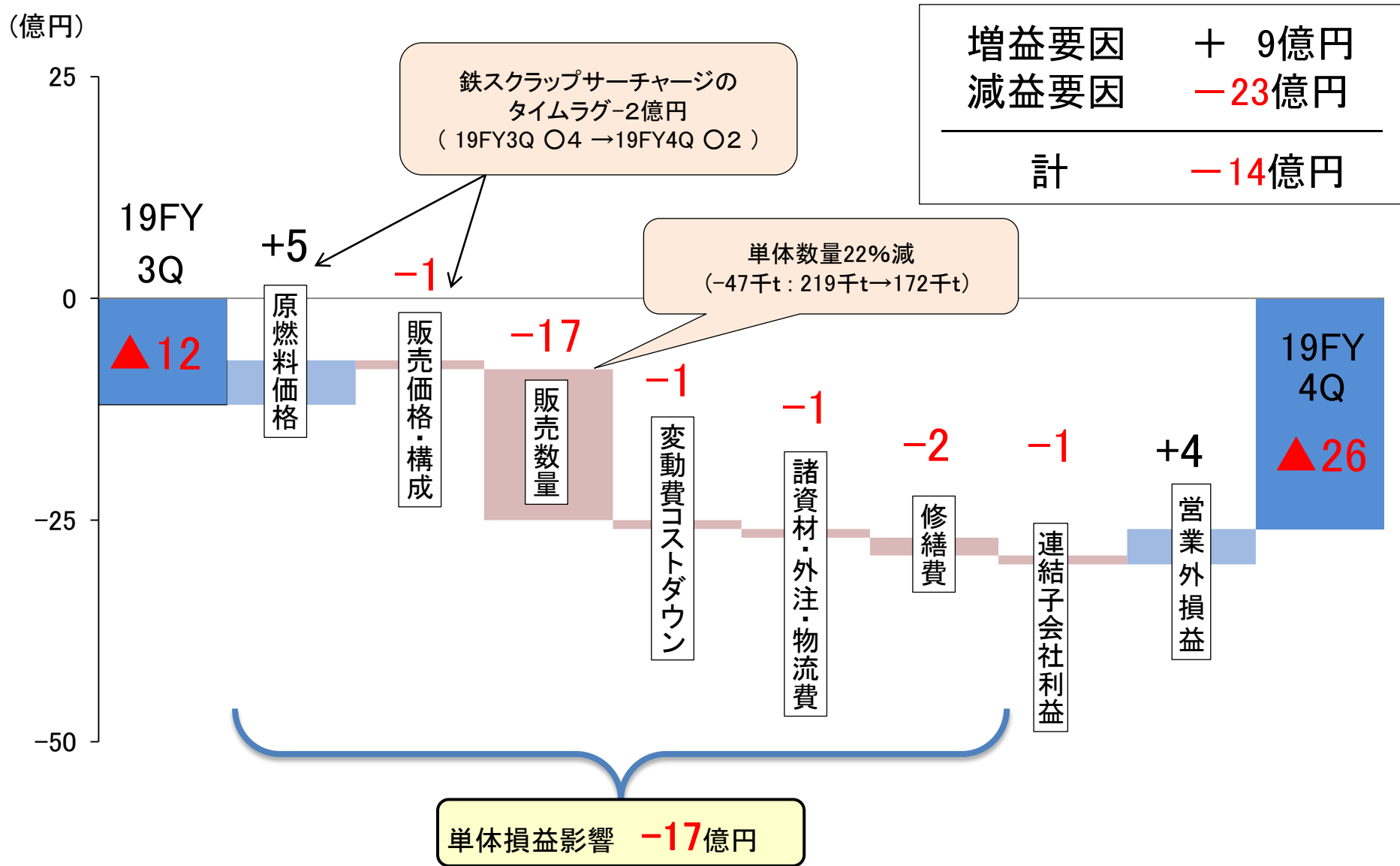


(注) 内 Ovako-6億円、MSSS-7億円、素形材子会社-8億円

# 経常利益の変化要因(2019FY上期→2019FY下期)

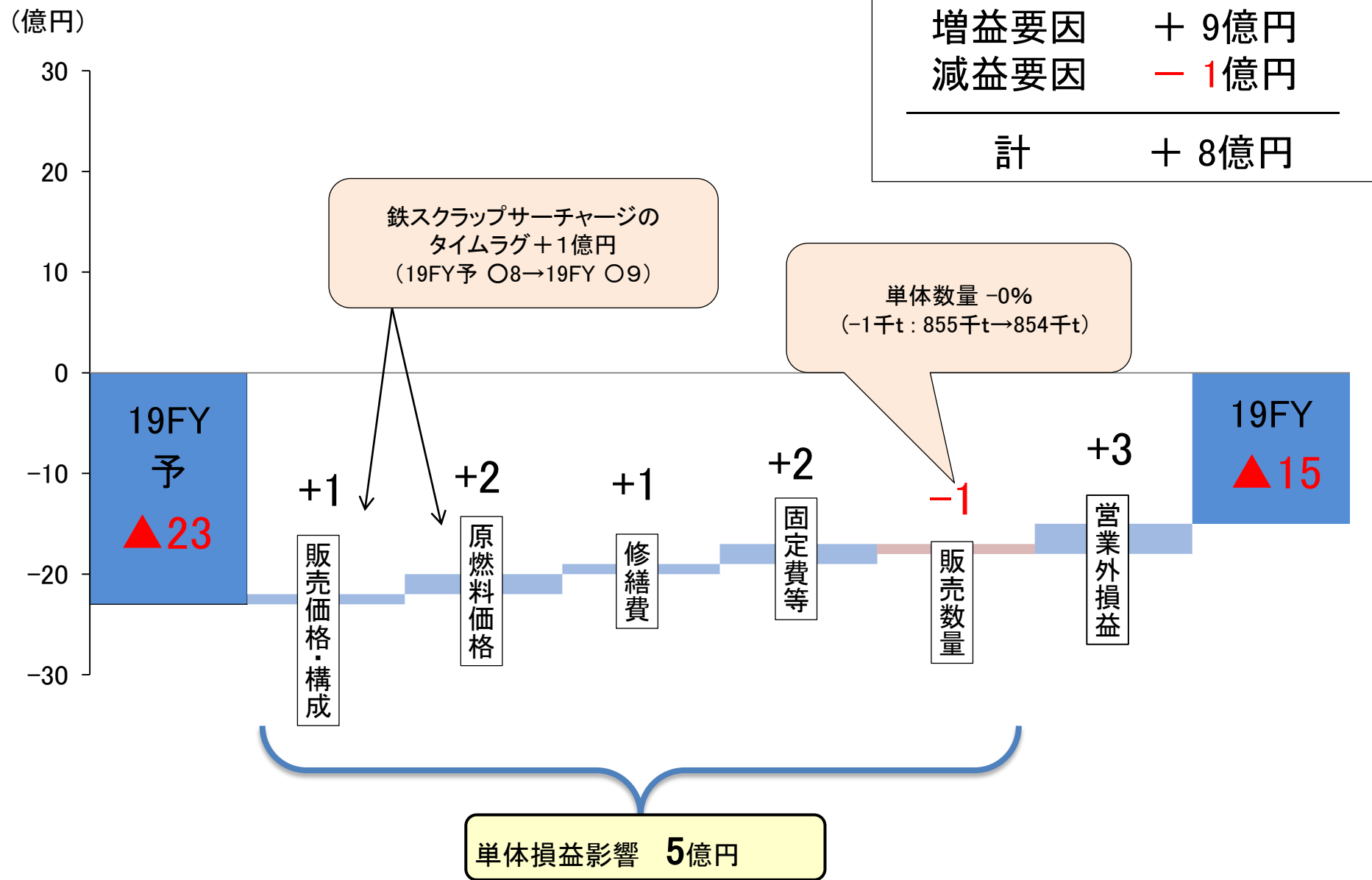


# 経常利益の変化要因(2019FY3Q→2019FY4Q)

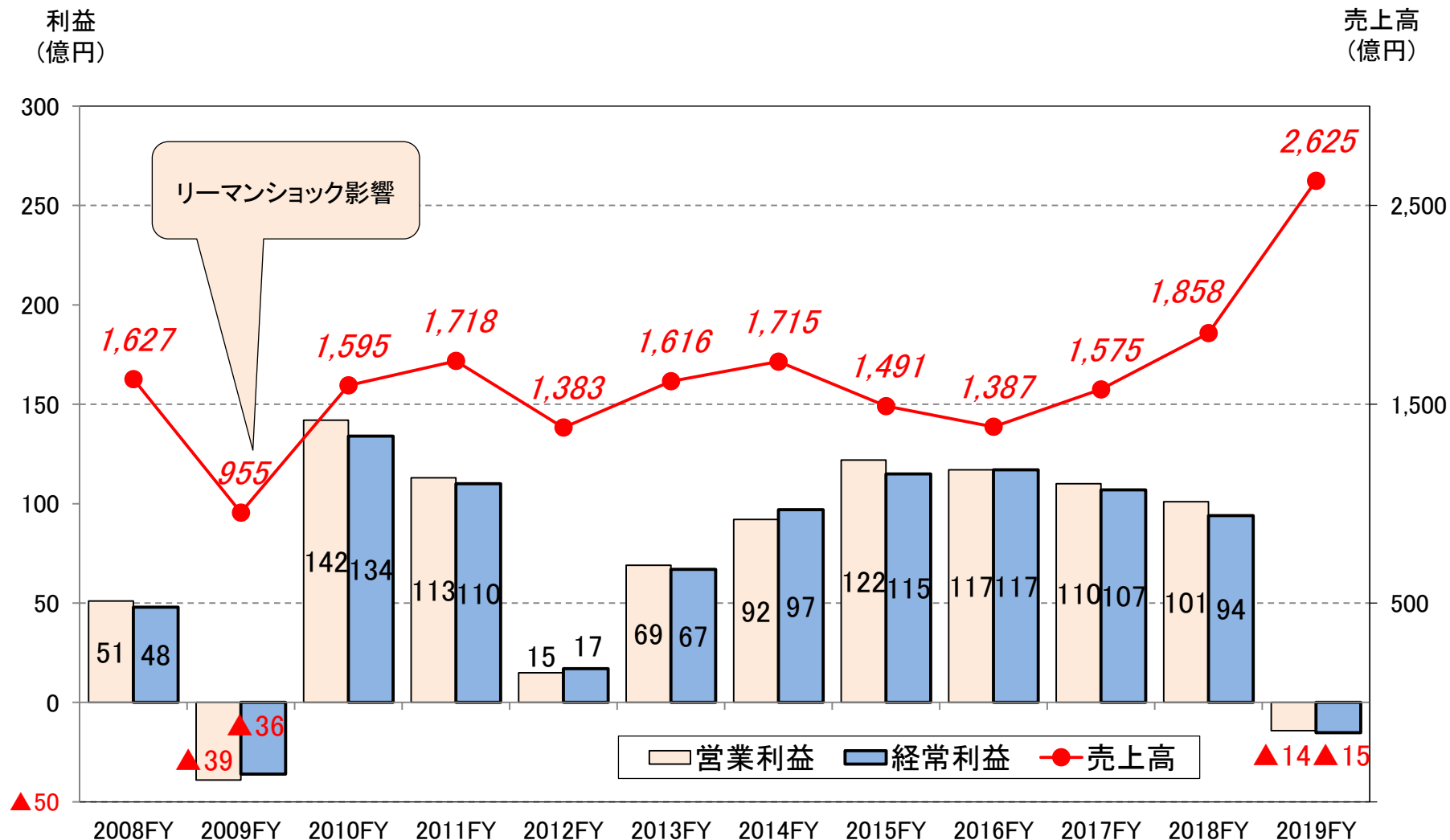




# 経常利益の変化要因(2019FY予想→2019FY)



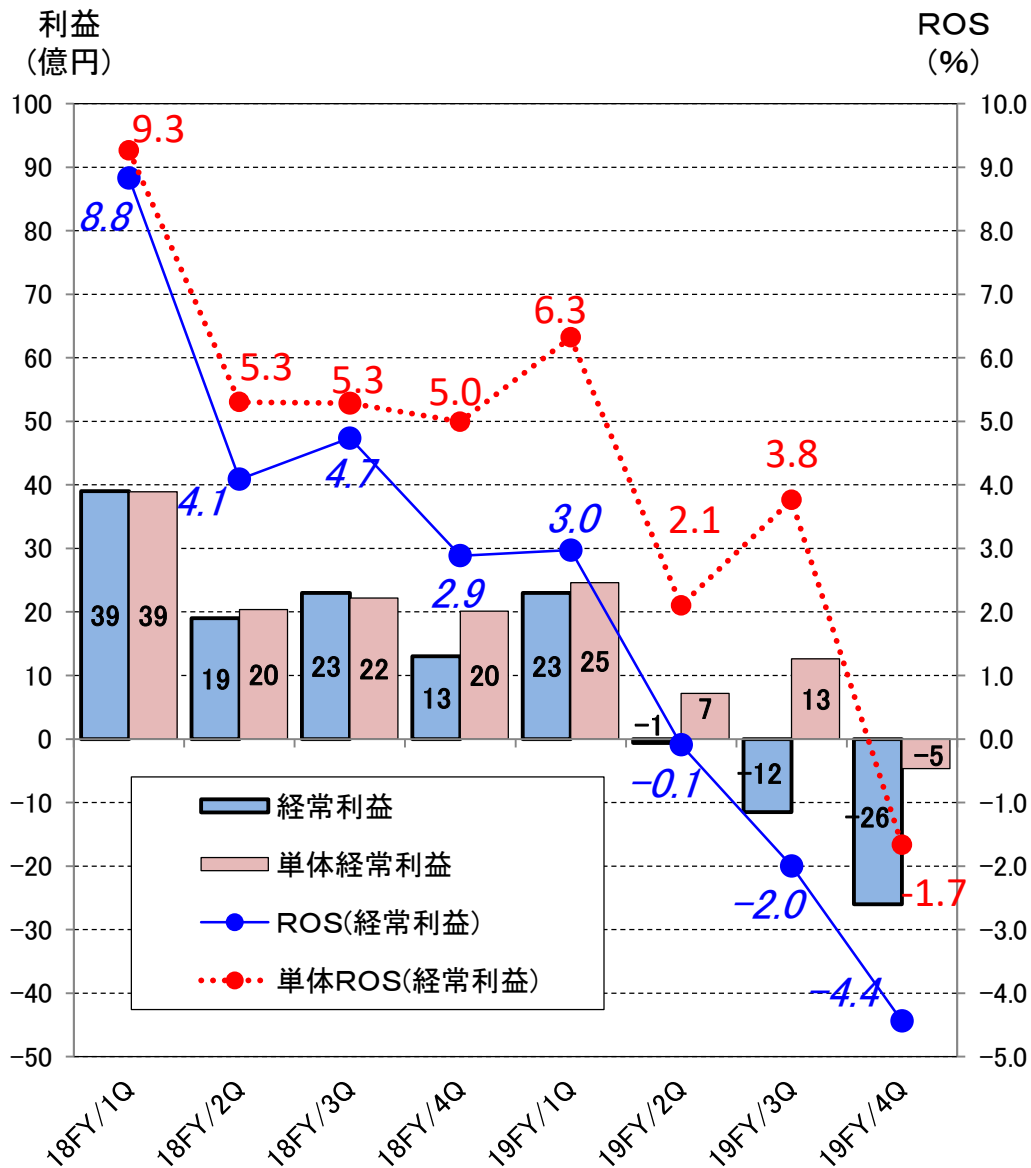
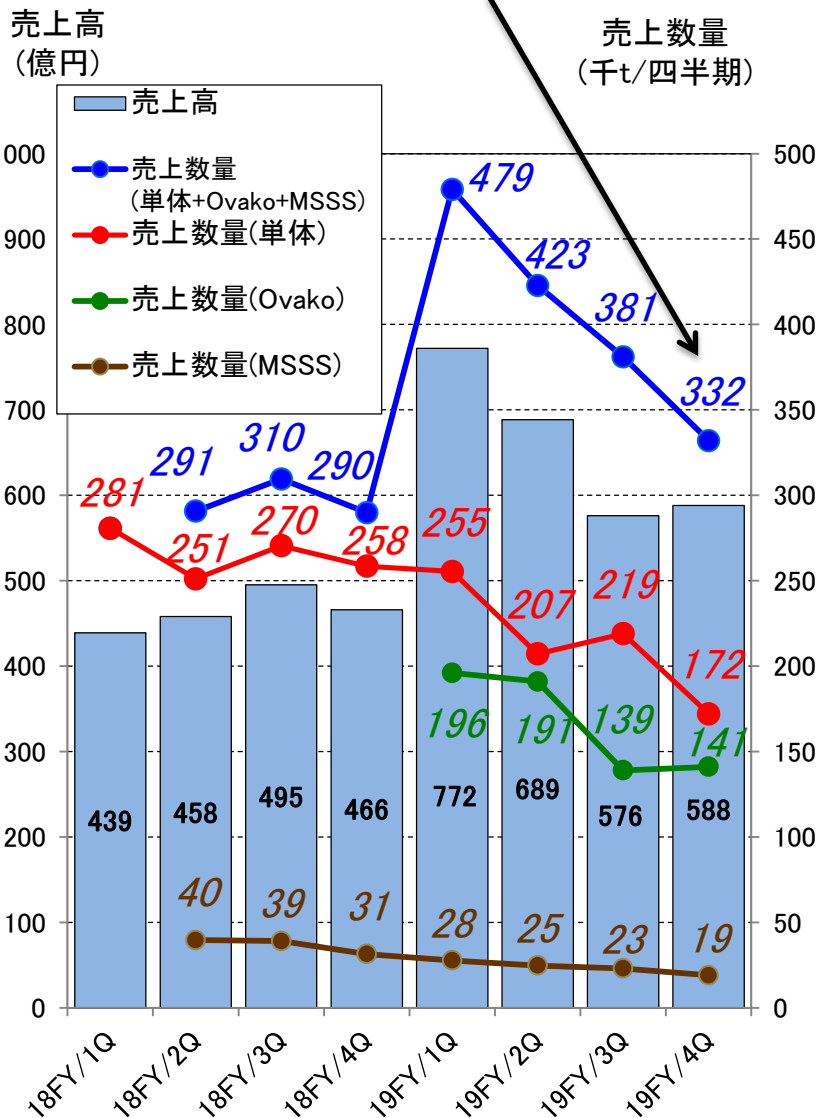
# 業績推移(年度)



(注) MSSSは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結。

# 業績推移(四半期)

Ovako: 12月クリスマス休暇設備休止による売上数量減  
 当社 : 需給の落ち込みにより売上数量減



# 当社単体業績

## 2019年度の概況

- ・米中貿易摩擦
- ・新興国経済の減速
- ・英国のEU離脱問題

### 需要業界の在庫調整の動きが拡大

- ・工作機械
- ・ロボット
- ・半導体製造装置



- ・自動車
- ・産業機械
- ・建設機械

当社単体の受注状況悪化

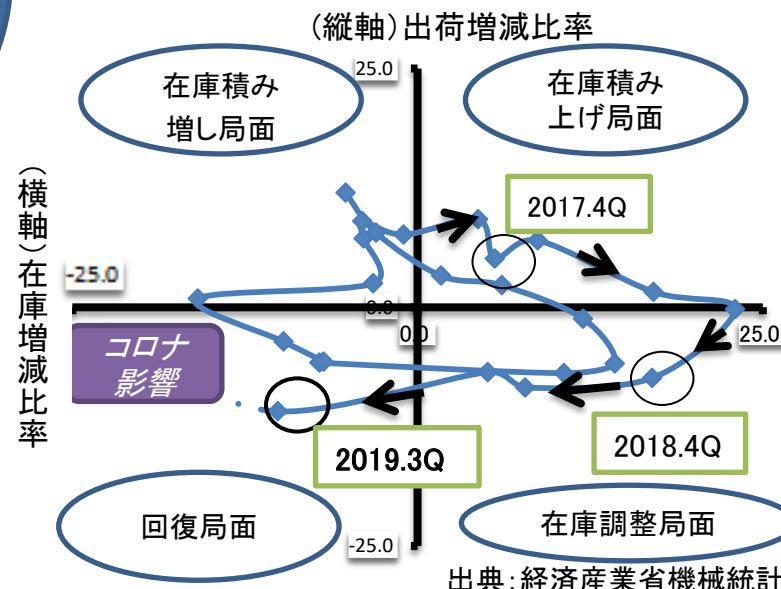
主要需要業界の在庫調整継続、当社受注低迷

当社単体では、  
前回予想(2020年  
1月末)に比べて営  
業利益増益

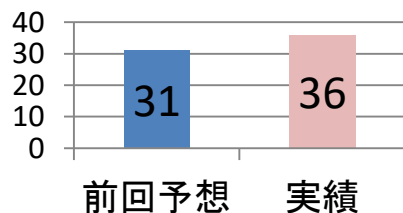
### 対策実施

- ・最適生産・コストミニマム操業の継続
- ・緊急収益改善対策を実施(後述)
- ・意図的に生産を抑制  
→在庫調整進展

### 軸受在庫循環図



単体営業利益(億円)



### 2019年度の概況および今後

- ・米中貿易摩擦
- ・英国のEU離脱問題

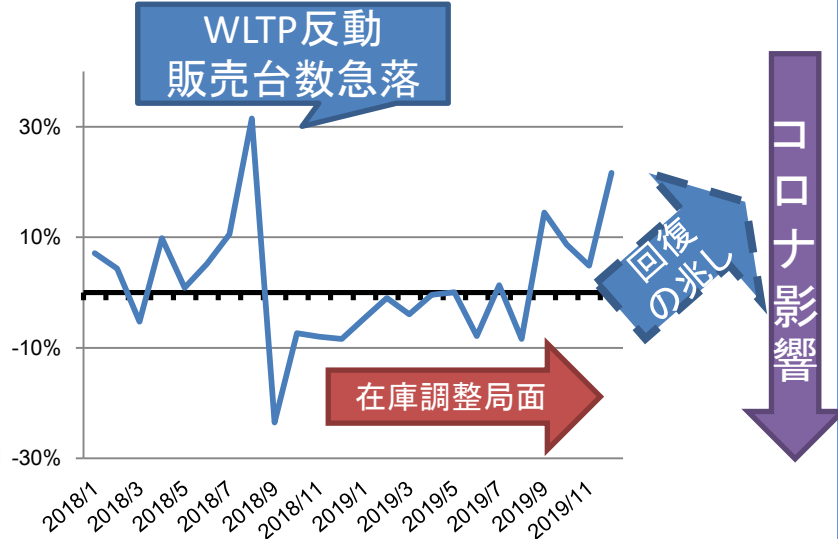
- ・WLTP駆込需要反動  
(欧州新燃費計測法)
- ・サプライチェーン在庫調整

- ・EU経済減速
- ・製造業景況感悪化

- ・EU特殊鋼需要急落  
(2018/10月頃～)

### 欧州自動車販売台数

(前年同月比増減率)



### 収益改善策は継続して実施

- ・人員削減等による固定費の削減
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮
  - ① 拡販活動の推進
  - ② 操業コストの削減
  - ③ 調達コストの削減
- ・余剰排出権の売却

2019年12月には底打ちと認識していたが、

2020年春以降は、新型コロナウイルス影響により再び経済の不透明感あり

### 2019年度の概況および今後

#### インド国内自動車販売

2018年11月以降前年同月比 マイナス継続  
 2019年8月 前年同月比 ▼30%超

2019年10～12月 落込幅縮小  
 →大幅な在庫調整終息見通し

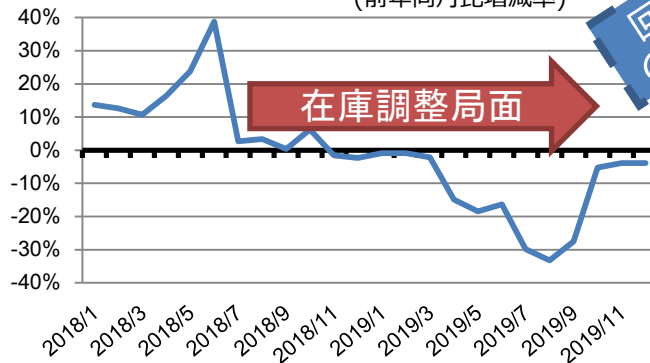
MSSS販売数量は、年明け以降回復していたが、

#### 収益改善策は継続して実施

- ・2020年の鉄道向けの総受注規模 25,000t
- ・営業支店網充実等を通じた高収益品の受注量拡大  
 新規顧客獲得、既存顧客のシェアアップ
- ・まとめ生産によるエネルギー原単位改善や中国製電極の使用による操業コスト・調達コストの削減
- ・要員適正化による労務費・外注費削減

#### インド自動車販売台数

(前年同月比増減率)



MSSSの工場所在地のコポリ地区(マハラシュトラ州)は5/3までロックダウン中。MSSSは3/23から操業停止。(2020/4/28現在)

政府の規制や顧客の動向を確認しつつ、速やかな操業再開に向け、準備を進めている。

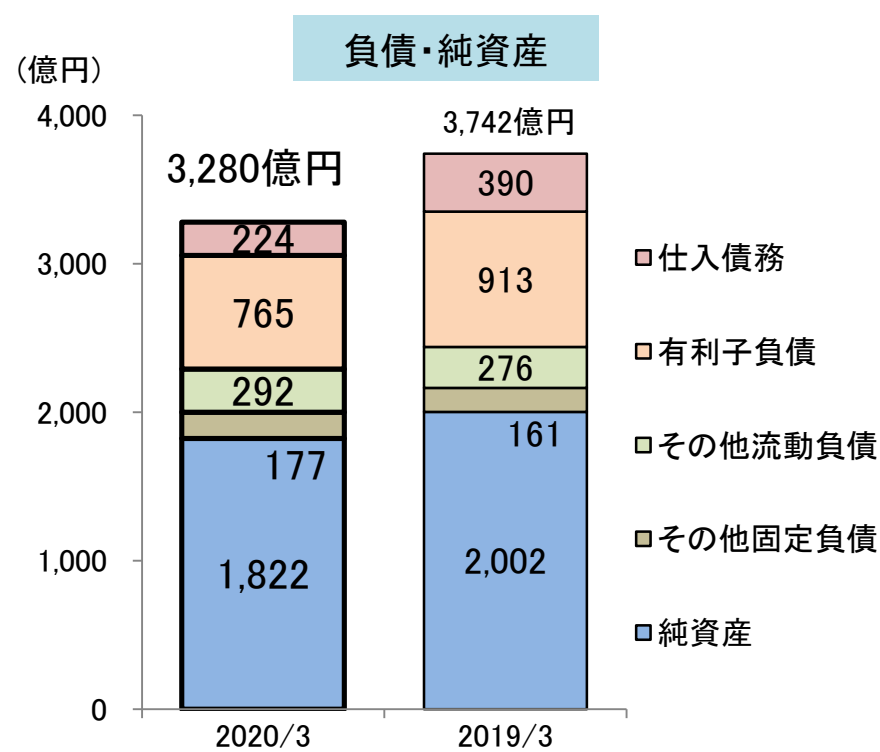
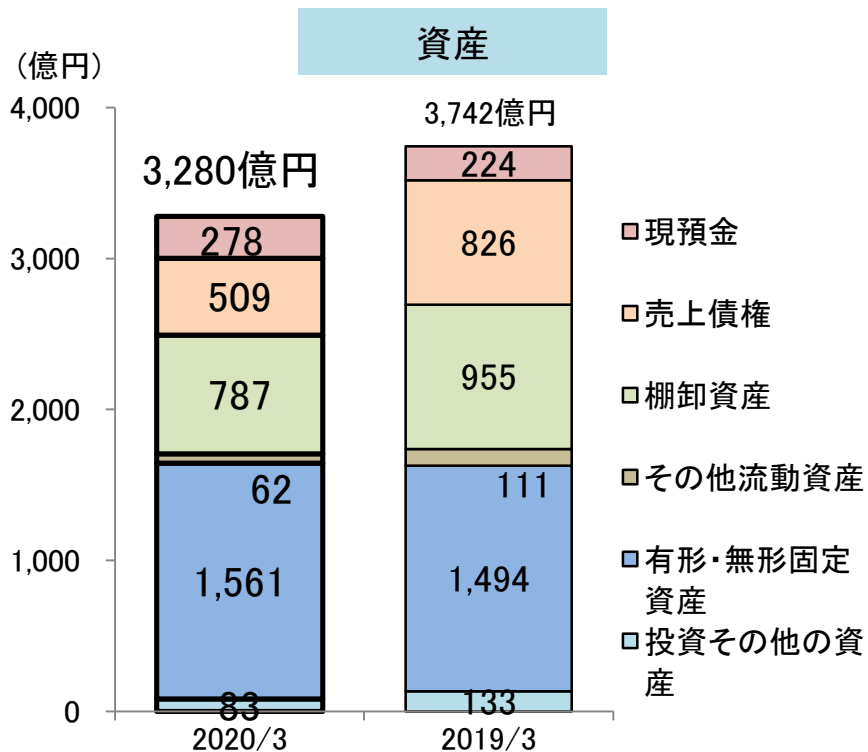
2020年春以降は、新型コロナウイルス影響により再び経済の不透明感あり

## セグメント別損益

(単位:億円)

	2019FY(A)			2018FY(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)
鋼材	2,484	▲17	-0.7	1,702	85	5.0	+781	-101	-5.7
粉末	41	3	6.4	49	7	13.9	-8	-4	-7.5
素形材	179	▲1	-0.7	200	9	4.4	-20	-10	-5.1
小計	2,704	▲15	-0.6	1,951	100	5.1	+753	-115	-5.7
その他	19	1	3.6	16	0	2.6	+2	+0	+1.0
調整額	▲99	0	—	▲109	1	—	+11	-0	—
連結計	2,625	▲14	-0.5	1,858	101	5.4	+766	-115	-5.9

## 貸借対照表



## 資産の主な増減 -463億円 (-12%)

現預金	+ 54億円	営業CF増
売上債権	-317億円	売上減少の影響
棚卸資産	-168億円	原燃料価格の下落、売上減少に伴う在庫減 在庫削減活動
有形・無形 固定資産	+67億円	当社+124億円、のれん-68億円 (のれん増減内訳、償却 -42億円、為替変動等 -25億円)
	<b>【のれん総額 356億円←424億円】</b>	

## 負債・純資産の主な増減 -463億円 (-12%)

仕入債務	-166億円	原燃料価格の下落、出荷量減/生産量減 に伴う購入減
有利子負債	-149億円	出荷量減/生産量減に伴う運転資金減により 有利子負債返済
純資産	-180億円	利益剰余金-59億円、自己株式取得 -25億円 その他包括利益累計額-89億円

(参考)主要各社の単体総資産額(連結消去前)

当社 2,509億円 Ovako 869億円 MSSS 152億円

自己資本比率	2020/3	2019/03
	<b>54.4%</b>	<b>52.3%</b>



# キャッシュ・フロー計算書

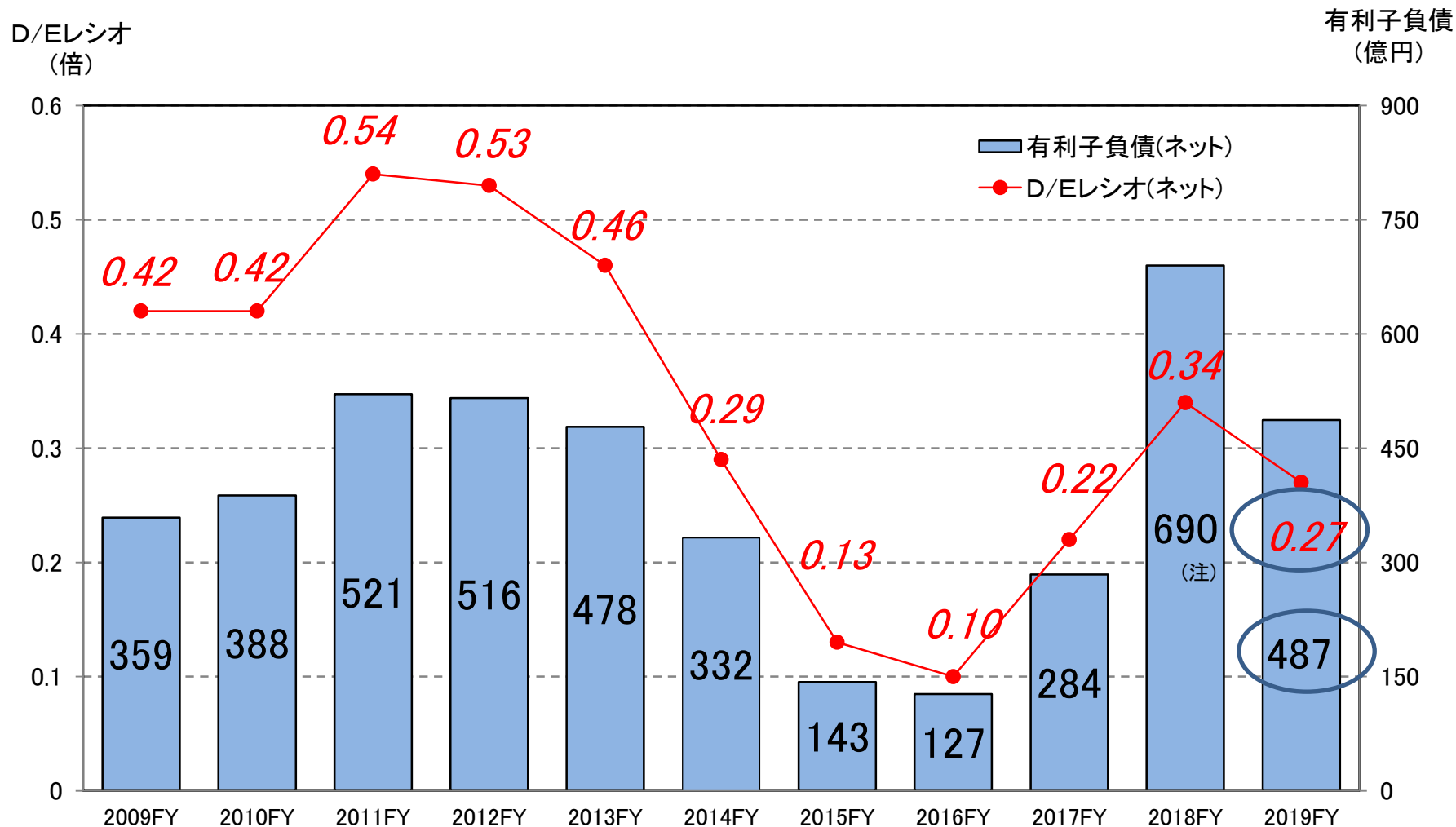
決算の概況

営業CFは潤沢

(億円)

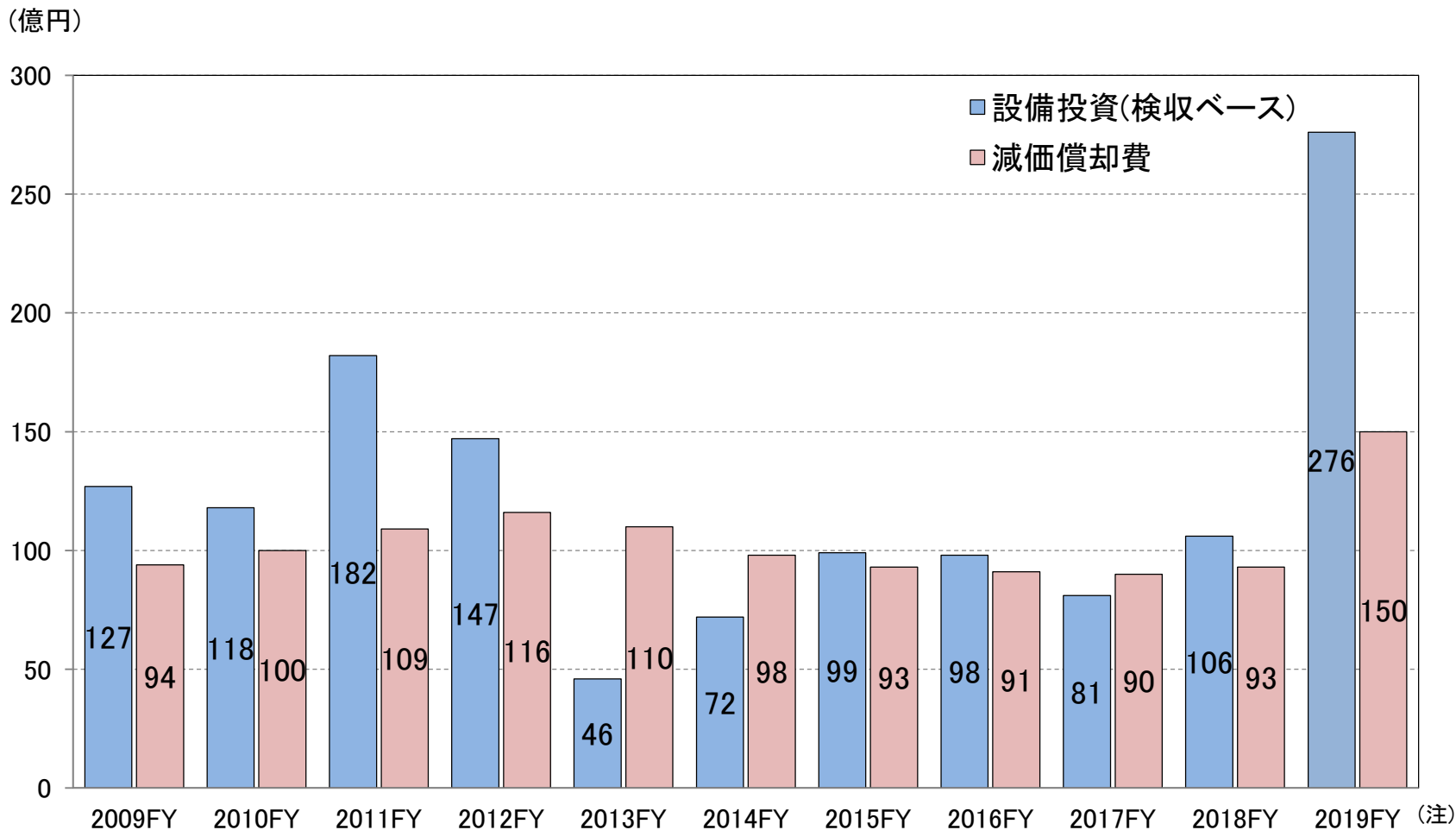
	2015FY	2016FY	2017FY	2018FY	2019FY
営業活動によるC/F (A)	288	151	△56	108	394
税金等調整前当期純利益	205 { 111 93 }	206 { 115 91 }	193 { 103 90 }	200 { 104 96 }	160 { △33 193 }
減価償却費・のれん償却費	△48	△40	△37	△33	△42
法人税等の支払または還付	131	△15	△212	△60	276
運転資金等					
投資活動によるC/F (B)	△85	△111	△84	△690	△125
設備支出	△71	△107	△80	△91	△183
子会社株式取得	—	—	—	△604	47
株式売却収入	—	—	1	1	22
その他	△14	△4	△4	4	△11
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	203	39	△140	△583	270
財務活動によるC/F (C)	△188	△108	147	659	△211
借入金・社債・CP・リース債務の増減	△167	△90	166	5	△164
株式の発行による収入	—	—	—	671	—
自己株式の取得または売却	△0	△0	△0	△0	△25
配当金の支払	△21	△18	△23	△23	△22
その他	—	—	4	5	△0
換算差額 (D)	△2	△3	△0	△2	△4
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	13	△71	8	75	54

## D/Eの推移



(注) 2018FYの有利子負債(ネット) 690億円の内、Ovakoは、336億円、MSSSIは、28億円。

# (参考)設備投資・減価償却費の推移



(注)2019FYの設備投資(検収ベース) 276億円の内、当社の第二棒線工場のボトルネック解消投資 136億円、Ovako 48億円、MSSS 8億円。  
2019FYの減価償却費 150億円の内、Ovako 54億円、MSSS 5億円。

## 2019FY配当金について

当期は、第2四半期累計期間の実績に基づき1株当たり15.5円の間配当を実施させていただきました。期末配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純損益が37億の赤字となったため、誠に遺憾ながら、無配とさせていただきます。

(参考)

	2019FY		2018FY
	(のれん償却後)	(のれん償却前)	
当期純利益(注1)	▲37億円	5億円	77億円
1株当たり当期純利益	▲67.1円	9.3円	237.8円
1株当たり年間配当(A)	15.5円/株		69.0円/株
【配当性向(年間)】(注2)	—	1.7倍	29.0%
中間配当実施額(B)	15.5円/株		45.0円/株
期末配当実施額(A)-(B)	0円/株		24.0円/株

2019FY予想 (20/1/31公表値)	
(のれん償却後)	(のれん償却前)
▲28億円	1億円
▲50.6円	1.8円
15.5円/株	
—	8.5倍
15.5円/株	
0円/株	

配当金総額	9億円	28億円
自己株取得額	25億円	—
株主総還元	34億円	28億円
総還元性向(注3)	—	6.5倍

9億円	
25億円	
34億円	
—	33.6倍

(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益

(注2) 配当性向は、1株当たり年間配当金を1株当たり当期純利益で除して算定した値を記載。

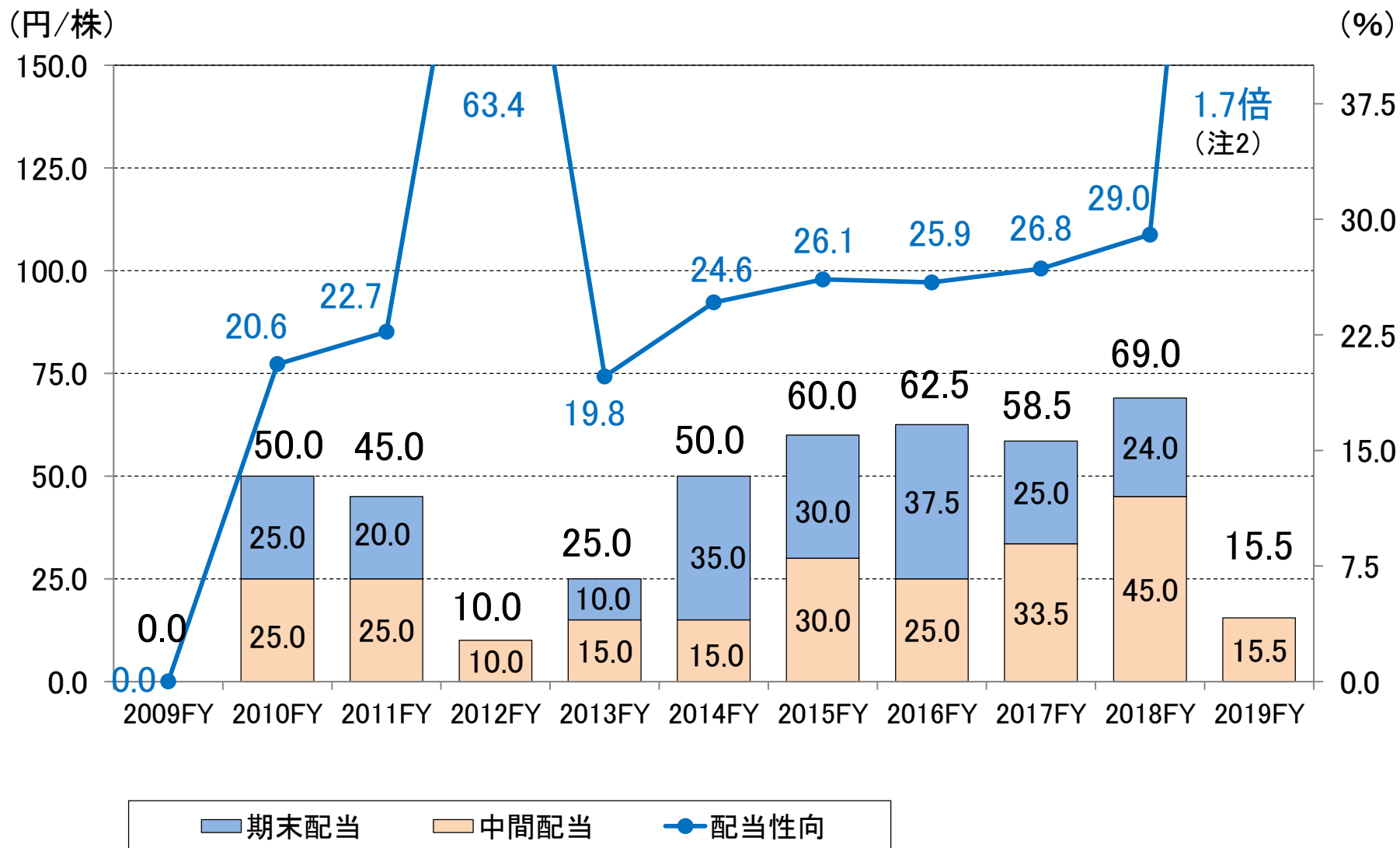
(注3) 総還元性向は、株主総還元を当期純利益で除して算定した値を記載。

(注4) 従来所有と今回取得分の自己株式合わせて2,930,000株(消却前の発行済株式総数の5.1%)については、2019年12月27日に消却。

&lt;配当方針&gt;

連結配当性向25~30%程度を基準とする

# 配当推移



(注1) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注2) のれん償却前EPSから算出。

## 緊急収益改善対策(2020年1月31日公表)

## 早期の収益改善を図るため緊急収益改善対策を実施

項目	実施内容		実施期間
①役員等報酬の一部返上 (※)	代表取締役社長	報酬月額20%	2020年2月分報酬から当面の間
	取締役常務執行役員 フェロー 執行役員	報酬月額10%	
	参与	報酬月額7%	
②雇用調整助成金制度を活用した休業等	本社工場勤務の全従業員を対象とした2日/月程度の休業等の雇用調整助成金制度の活用		2020年3月1日から当面の間
③管理職給与の一部自主返上	部長、室長層	給与月額5%	2020年2月分給与から当面の間
	グループ長、課長層	給与月額3%	
	その他管理職	給与月額1%	
④その他経費の削減等	不急の出費・投資の抑制など、可能な限りの経費節減および徹底したコストミニマム操業を実施		

※なお、常勤監査役より監査役報酬月額の10%を同期間返上するとの申し出がありました。

- ・上記の年間効果額 5億円
- ・上記以外に、業績連動賞与・残業代の減少で、2019年度 5億円、2020年度は、10億円(2019年度比 +5億円)の労務費減を見込む
- ・Ovako、MSSSを含む連結子会社でも更なる収益改善に取り組む

# 2020年度業績予想及び配当予想

2020年度の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、この先の受注状況等を現段階で見通せないことから、合理的に算定することが困難であるため未定としております。業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに開示いたします。

2020年度の配当予想につきましては、業績予想を未定とさせていただいておりますため、未定とさせていただきます。配当予想の開示が可能となった段階で、速やかに開示いたします。

# 新型コロナウイルス感染症への対策

## 国内での対策(4月28日時点)

### 【従業員に対して】

- ・緊急事態宣言以降は、事業活動継続に必要な従業員に絞って出社
- ・テレワーク環境を整備、テレワークが可能な職務は在宅勤務
- ・出社前の検温を実施
- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行
- ・グループ社員へのマスクの配布
- ・アルコール消毒薬の社内への配置
- ・社内にサーモグラフィーカメラ、体温計の設置
- ・室内の換気、勤務中の対人距離確保
- ・混雑時間帯を避けた出退勤、食堂の時差利用
- ・国内外の出張は原則禁止
- ・対面での会議開催は極力回避、Web会議による実施推奨

### 【営業活動】

- ・得意先様などへ訪問の自粛、当社への訪問の制限

### 【生産体制】

- ・供給責任を果たす観点から、事業活動継続に必要な従事者で対応

## 海外での対策(4月28日時点)

基本的には、各国の法令・方針に従った措置を行う。

### 【各事務内勤者に対して】

- ・在宅勤務(欧州・インド・中国等)      ・必要に応じて派遣者帰国

### 【従業員に対して】

- ・出社前の検温を実施
- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行



## トピックス

## (1) 歯科医療機器製造用3Dプリンター粉末を実用化(2020年3月17日公表)

- ・当社製造の3Dプリンター粉末を用いて、株式会社アイディエス(歯科医療用材料・製品メーカー)が薬事承認(※1)を取得。同粉末が歯科医療機器製造用の国産材料として初めて実用化された。
- ・当社は、ガスアトマイズ法(※2)により不純物の少ない高品質の金属粉末を効率よく製造。
- ・3Dプリンターを活用した歯科補綴物(※3)等の、安定・安価な供給と更なる普及が期待される。

## ※1 薬事承認

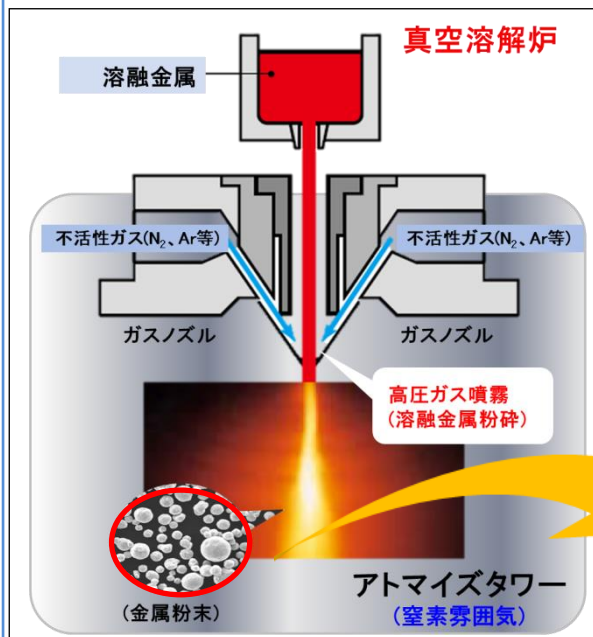
医薬品や医療機器を販売するにあたり医薬品医療機器法に基づき厚生労働省から受けるべき承認。

## ※2 ガスアトマイズ法

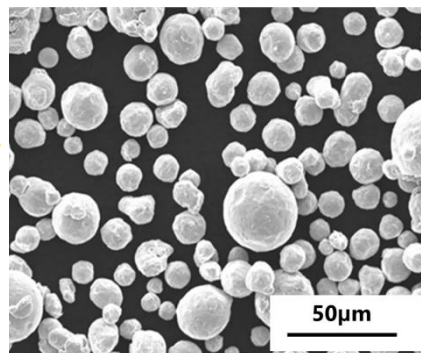
真空雰囲気中で溶解した金属を不活性ガスで噴霧する方法。当社は、ガスアトマイズ金属粉末の国内市場でトップクラスのシェアを有する。

## ※3 歯科補綴物(ほてつぷつ)

歯の機能を修復するために用いる歯の修復物や入れ歯等をいう。



ガスアトマイズ法による金属粉末製造



山陽特殊製鋼のガスアトマイズ粉末

3D  
プリンティング



3Dプリンターを活用した歯科補綴物

## トピックス

## (2)次世代型レキュペレータ用耐熱鋼を開発(2020年3月17日公表)

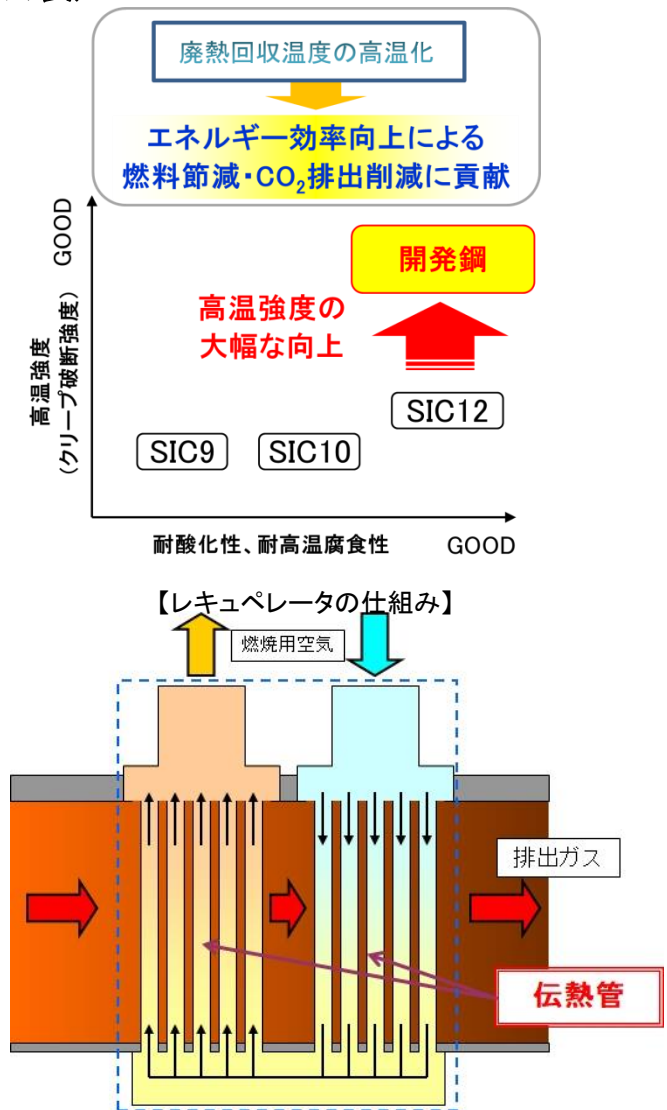
- ・当社は、高クロムフェライト系耐熱鋼「SICシリーズ」(※1)のなかで耐酸化性と耐高温腐食性が最も優れる「SIC12」をベースに、高温強度を大幅に向上させた耐熱鋼を開発。
- ・本開発鋼をレキュペレータ(※2)の伝熱管に適用することにより、より高い温度での廃熱回収が可能。各種工業炉のエネルギー効率向上による燃料節減とCO<sub>2</sub>排出削減への貢献が期待される。

## ※1 SICシリーズ

当社が開発した耐高温腐食用ステンレス鋼。高クロムフェライト系ステンレス鋼にシリコンやアルミニウムを添加することで高温での耐酸化性を向上させ、レキュペレータの伝熱管として長年にわたって広く使用されている商品。

## ※2 レキュペレータ

LNG等を燃料とする各種工業炉の煙道に設置され、排出されるガスの熱を利用して燃焼用空気を予熱する廃熱回収装置。



# トピックス

## (3)独立社外取締役就任(予定)について

- ・会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与する役割・責務を果たす資質を備えた独立社外取締役を新たに選任予定。
- ・2020年6月下旬開催予定の定時株主総会の承認を経て、現在の独立社外取締役2名から3名となり、当社取締役人数(9名)の3分の1となる。
- ・親会社を有する上場子会社として、コーポレートガバナンス・コードの要請を満たし、統治機能のさらなる充実を図る。

## (4)新型コロナウイルス感染拡大防止への支援(N95規格マスク寄贈)について

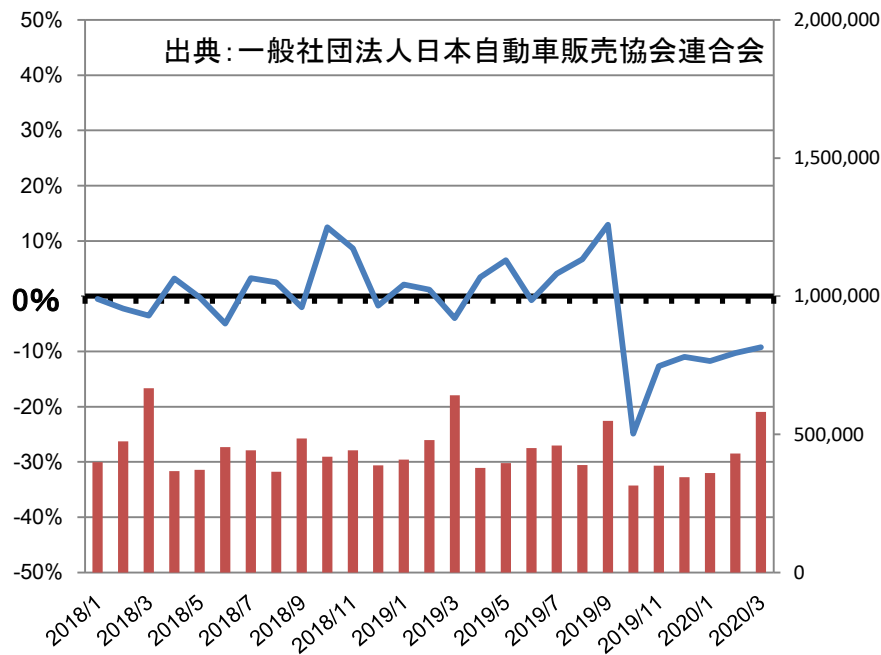
- ・新型コロナウイルス感染拡大による医療用高機能マスクが不足している状況下、感染症の診断や治療に尽力されている医療関係者に活用いただくため、自社保有のN95規格マスクを姫路市および厚生労働省に寄贈。(双方に各1千枚)
- ・当社としても、安全を最優先として感染拡大防止に努めるとともに適切な事業継続を推進。(全拠点で在宅勤務の拡大やICTを活用した接触削減等の感染防止策を実施)



# 自動車市場の動向

## 日本自動車販売台数

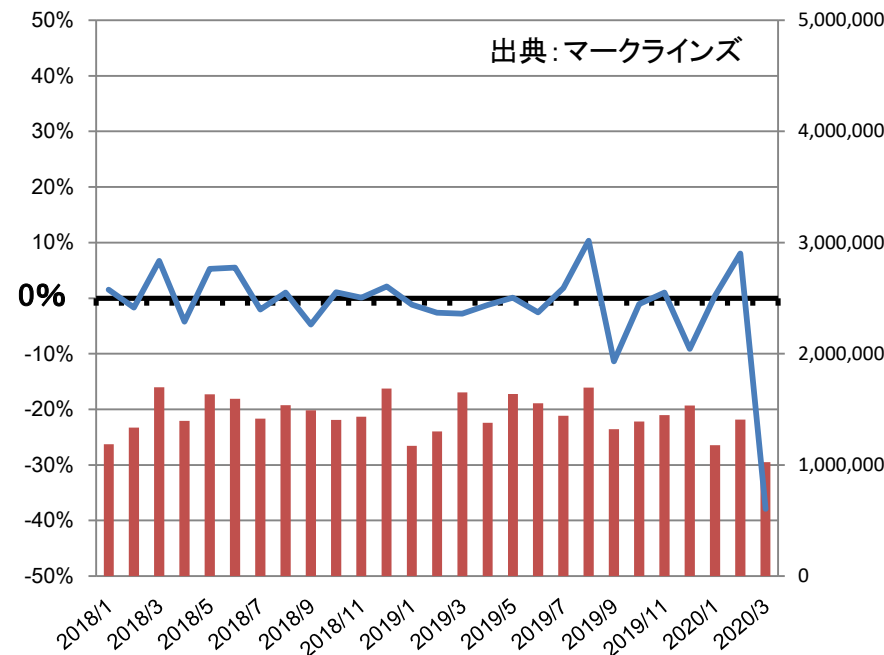
(前年同月比増減率)



2019/07～09は消費税増税前の駆け込み影響あり  
 2019/10は消費税増税後の反動で約-25%減  
 以降マイナス幅は、縮小傾向。

## 米国自動車販売台数

(前年同月比増減率)

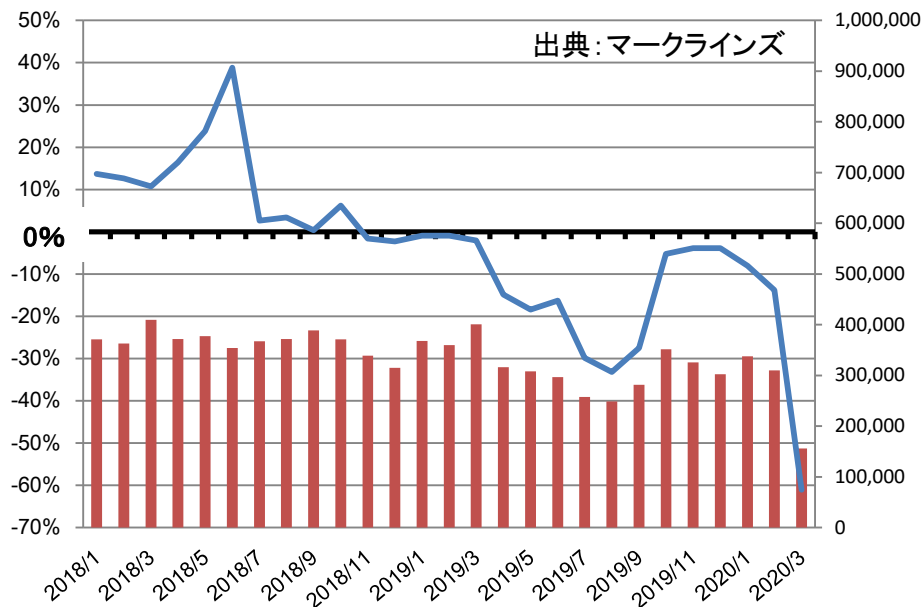


2018年の自動車販売は横ばい推移。  
 2019年前半はやや回復基調ではあったが、後半からストライキ等の影響もあり鈍化。2020/02は回復が見られたが、2020/3は新型コロナウイルス影響で、対前期比で-37.9%と大きく下落。

# 自動車市場の動向

## インド自動車販売台数

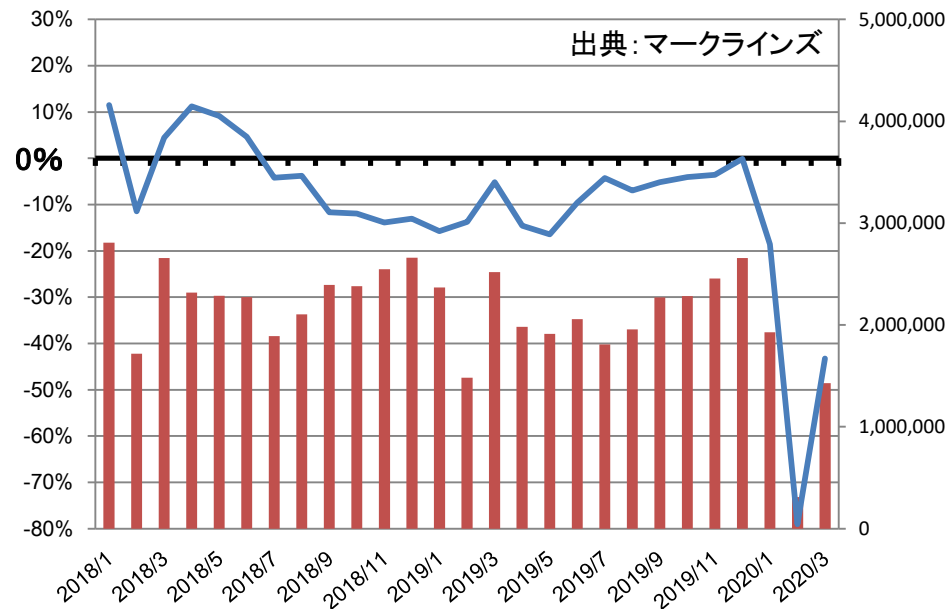
(前年同月比増減率)



保険料引上げ、燃料価格上昇、自動車ローン貸渋り、雇用環境悪化などの影響で、2018/07頃から長期にわたり落ち込みが継続。2019年秋口には底打ちし、足元マイナス幅縮小となっていたが、新型コロナウイルス影響で2020/3は、対前期比で-61.1%と大きく下落。

## 中国自動車販売台数 (工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)



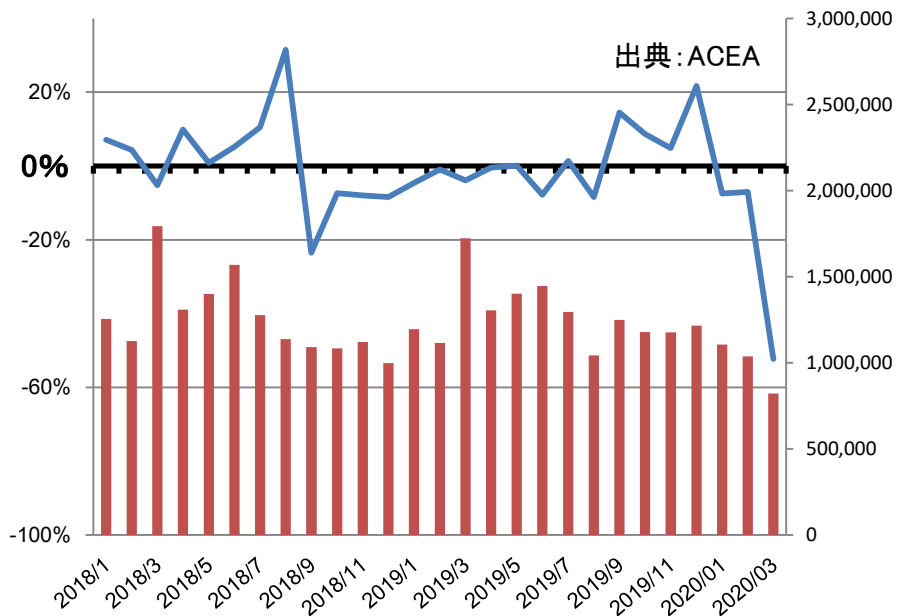
米中貿易摩擦、都市部での新排ガス基準導入影響で、2018年後半から対前期比で落込。2019年夏ごろよりマイナス幅縮小傾向であったが、新型コロナウイルス影響で2020/2は-79.1%と大きく下落。

# 自動車市場の動向

## 欧州自動車販売台数

(前年同月比増減率)

(単位：台)

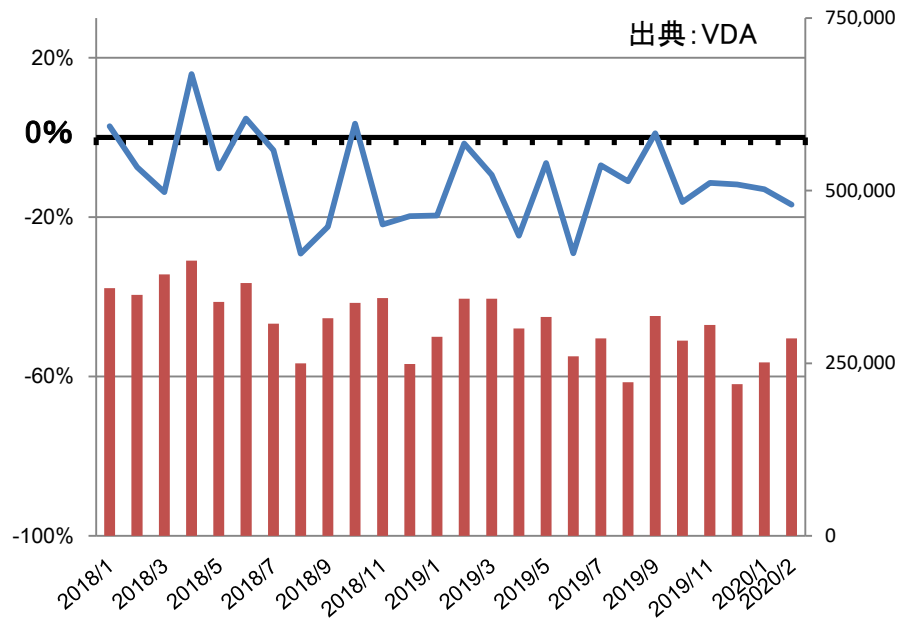


2018/09の急激な落込みはWLTP導入影響。  
以降はブレクジットや米中貿易摩擦などの懸念材料もあり、2019年夏頃までは、低調に推移。  
2019/09から回復の傾向がみられていたが、新型コロナウイルス影響で2020/3は、対前年同月比-53%。

## ドイツ自動車輸出台数

(前年同月比増減率)

(単位：台)

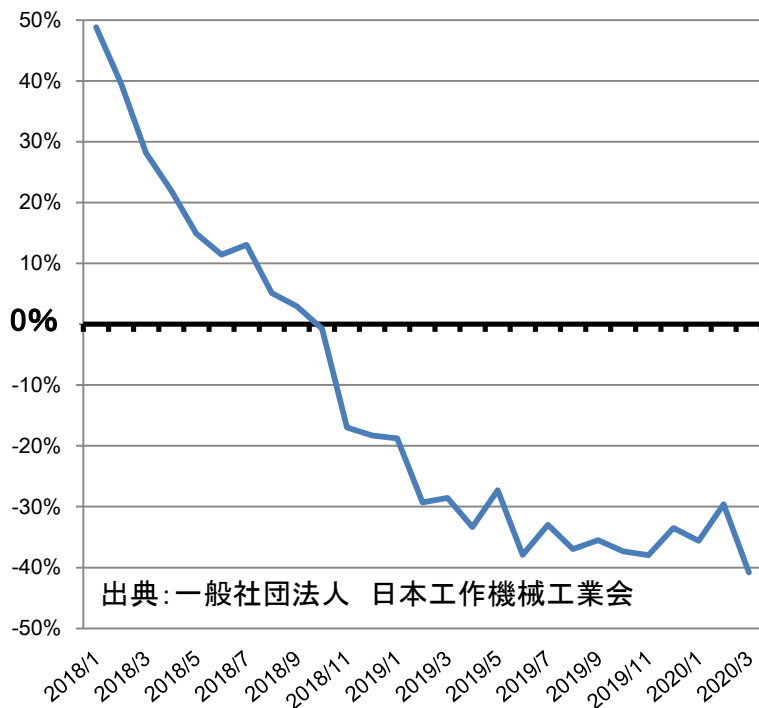


2018年以降、米中貿易摩擦の影響等で中国での自動車需要が減少、在庫調整もあり継続して下落基調。  
2020/2は、対前年同月比-17%。

# 産業機械市場の動向

## 工作機械受注金額（日本）

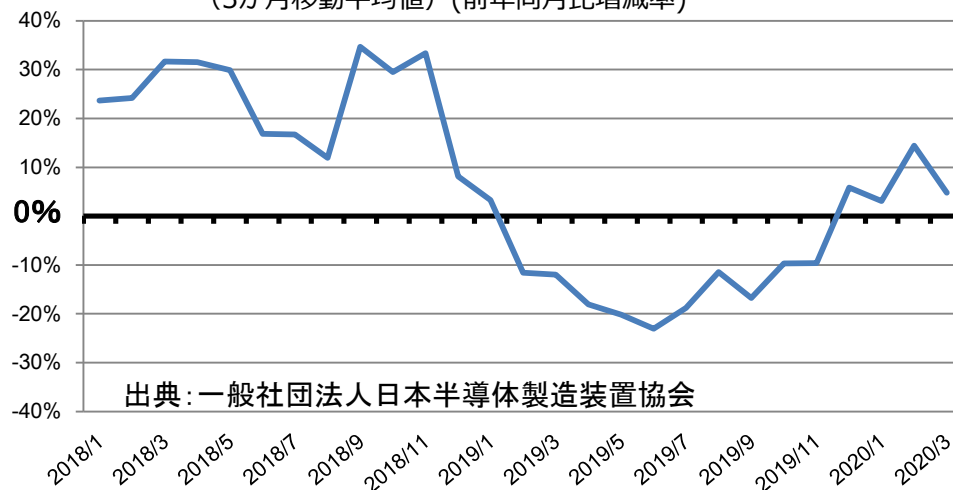
(前年同月比増減率)



- ・2017年から2018年上期までは、中国スマホ向け需要拡大が続き空前の好況。
- ・2018年秋ごろより米中貿易摩擦影響が、精密機械から自動車や一般機械向けに広がり、下落基調。足元対前期比で-30~-40%程度で推移。

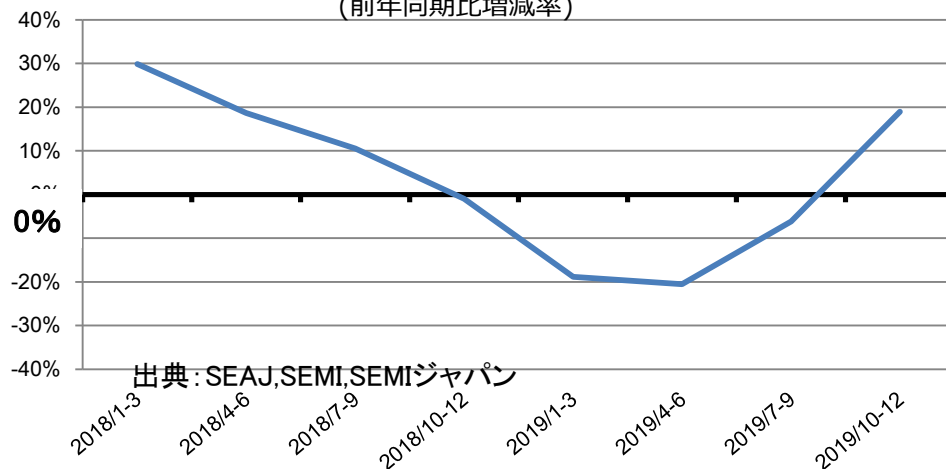
## 半導体製造装置販売金額(日本)

(3か月移動平均値) (前年同月比増減率)



## 半導体製造装置販売金額(世界)

(前年同期比増減率)

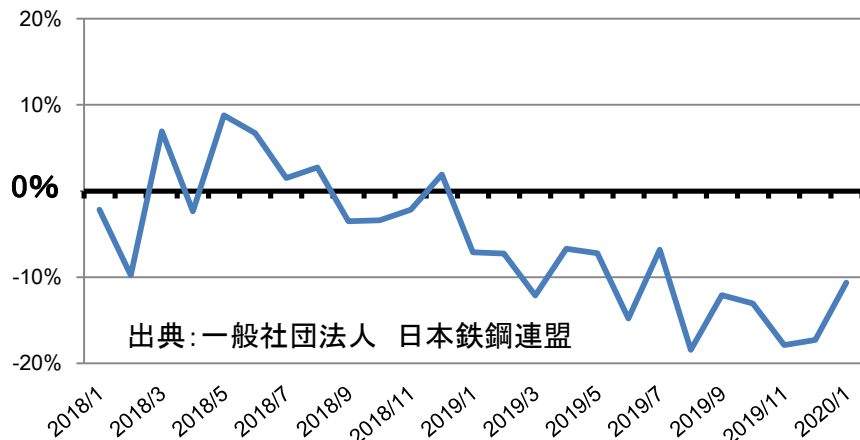


2017年から2018年までは、中国での需要拡大が続いていたが、米中貿易摩擦影響から落ち込む。2019年秋ごろから5G関連等で対前年同期比でプラス推移。

# 特殊鋼市場の動向

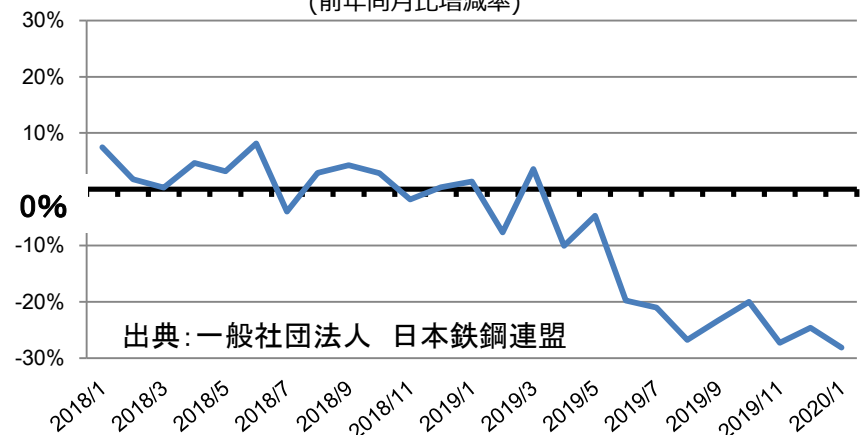
## 日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



## 日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)

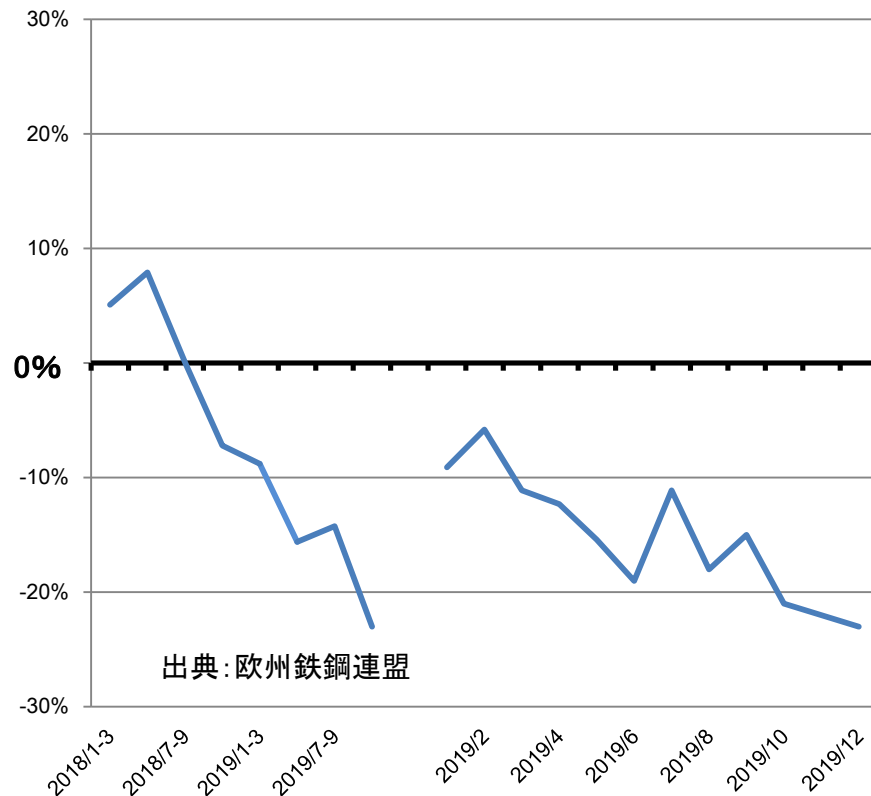
(前年同月比増減率)



軸受鋼は、2019年夏頃から受注が急減し、その後もマイナス幅が拡大。(世界各国での自動車・建機・産機向け需要低迷と大幅な在庫調整)

## 欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼

(前年同期比増減率)

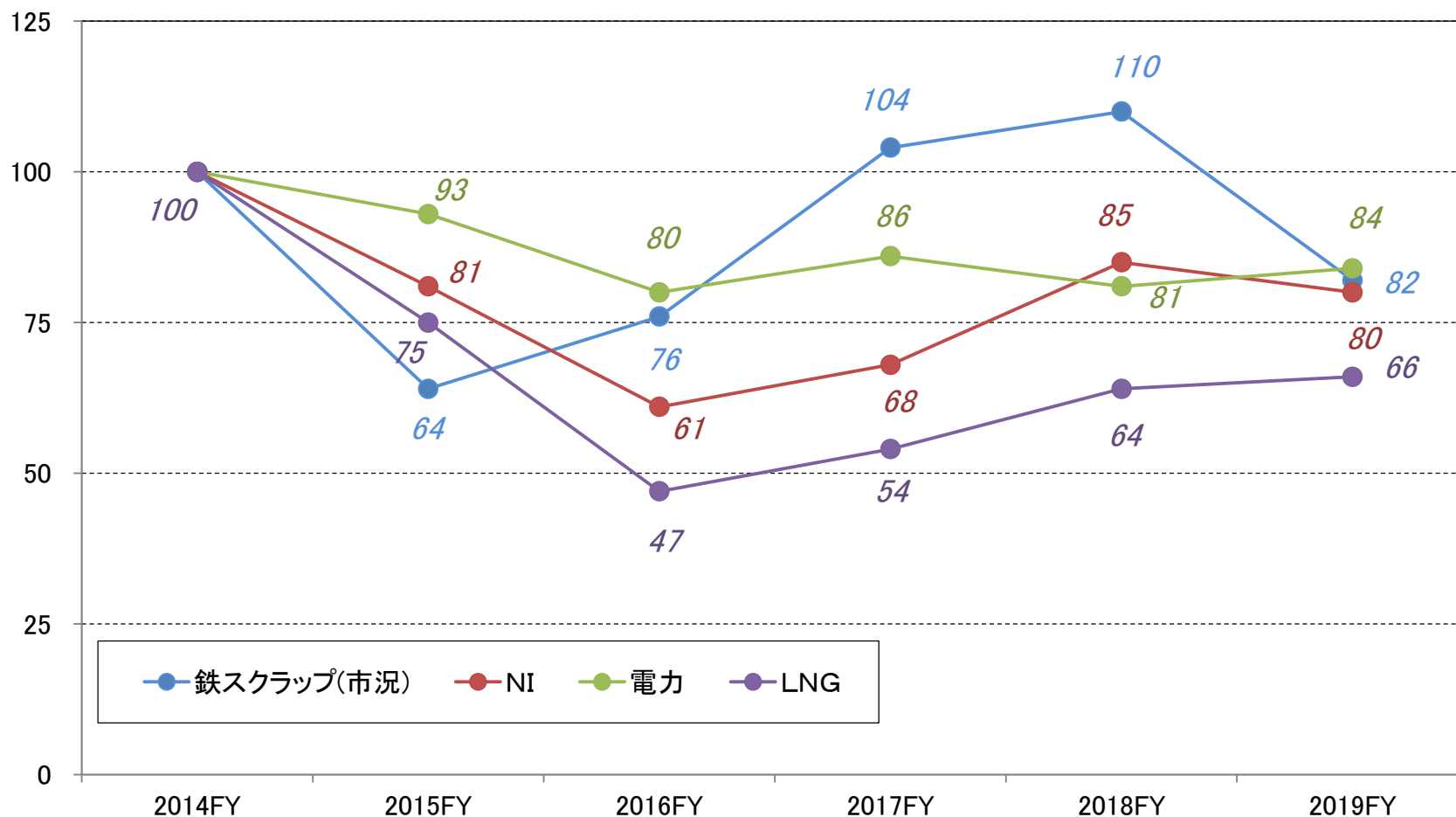


2018年10月以降、対前年同期比でマイナス推移。  
(自動車向け等需要低迷およびサプライチェーンによる在庫調整影響)



# 原燃料価格の推移

(2014FY を100とした指数表示)



(注)購入価格ベース

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。